

# 伊藤ハム米久ホールディングス(株)

本社所在地	東京都目黒区三田1丁目6番21号
設立	2016年4月1日
売上高	9,227億円(2023年3月期・連結)
会社URL	<a href="https://www.itoham-yonekyu-holdings.com/">https://www.itoham-yonekyu-holdings.com/</a>
環境保全関連URL	会社HP ~ サステナビリティ ~ <a href="https://www.itoham-yonekyu-holdings.com/csr/">https://www.itoham-yonekyu-holdings.com/csr/</a> 会社HP ~ 統合報告書2023 ~ <a href="https://www.itoham-yonekyu-holdings.com/Portals/0/images/csr/pdf/download/20230929_23IR_all_for_view.pdf">https://www.itoham-yonekyu-holdings.com/Portals/0/images/csr/pdf/download/20230929_23IR_all_for_view.pdf</a>
サステナビリティデータ	会社HP ~ 環境負荷の全体像と環境目的・環境データ ~ <a href="https://www.itoham-yonekyu-holdings.com/csr/environment_04.html">https://www.itoham-yonekyu-holdings.com/csr/environment_04.html</a>

## 持続的成長に向けた環境方針・目標

### ■ 当社の環境理念

『私たちは地球環境の保全が全世界共通の最重要課題のひとつであることを認識し、事業活動を通じて地球環境に配慮し、持続可能な社会を実現するために積極的に行動してまいります。』

### ■ 環境行動指針

#### 1. 法令遵守

国内外の環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。

#### 2. 環境負荷の低減

省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。

#### 3. 生物多様性の保全

森林や河川などの自然環境保護活動を推進し、生物多様性の保全に努めます。

#### 4. 環境保全活動の継続的改善

環境に及ぼす影響を考慮し、環境目標を定め、定期的な見直しによる環境保全の継続的改善を図ります。

#### 5. 自主管理の徹底

外部・内部監査を定期的実施し、自主管理の徹底を図ります。

#### 6. 環境教育及び意識醸成

社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に伊藤ハム米久グループ環境方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。







#### 7. 社会との共生

社会との対話、環境保全活動への参画により、社会との共生を図ります。

#### 8. 環境情報の開示

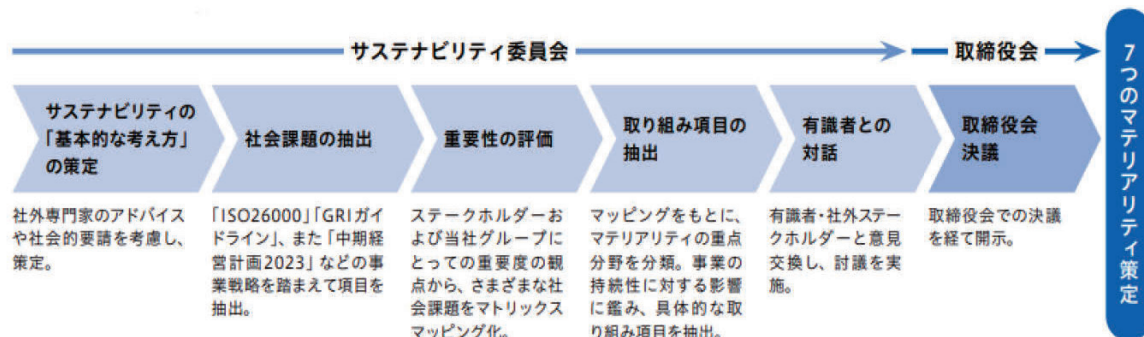
伊藤ハム米久グループの環境に関する情報を適切に開示します。

## 7つのマテリアリティと目標

マテリアリティ	考え方	取り組み項目	KPI
 <b>健やかで豊かな食生活の実現</b>	当社は、安全・安心で価値ある商品・サービスの提供を最優先としています。さらに、健康志向や簡便志向、食品ロスの低減など、多様なライフスタイルや社会的ニーズに対応した商品・サービスを提供していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●良質なたんぱく質の提供</li> <li>●多様なライフスタイルに対応した商品開発と健康価値の提供</li> <li>●食品ロス低減につながる商品の拡大</li> </ul>	
 <b>地球環境への配慮</b>	当社は、当社事業が地球環境に密接に関連していることを認識し、資源の有効活用、温室効果ガス排出量の削減などの環境負荷の低減に努めるとともに、生物多様性にも配慮した取り組みを推進していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●温室効果ガス排出量の削減</li> <li>●エネルギー・用水使用量の削減</li> <li>●廃棄物排出量の削減</li> <li>●生物多様性の保全</li> <li>●プラスチック使用量の削減</li> </ul>	温室効果ガス排出量 (CO2換算) エネルギー・用水使用量 (原単位) 廃棄物排出量 (原単位)
 <b>従業員一人ひとりが活躍できる職場づくり</b>	当社は、事業活動を支える従業員が安心して働くことができる職場環境を確保するとともに、多様な価値観と働き方を尊重します。従業員が企業とともに持続的な成長を目指していける風土を醸成していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人材開発・育成</li> <li>●ダイバーシティの尊重</li> <li>●ワークライフバランスの推進</li> <li>●労働安全衛生・健康管理・人権尊重</li> </ul>	研修参加人数 (年間) 管理職の女性比率 ※国内連結子会社 係長級の女性比率 ※国内連結子会社 有給休暇取得率 (1人当たり年間)
 <b>持続可能な調達と安定供給の推進</b>	当社は、畜産産業をはじめとした当社のすべてのビジネスパートナーと協調して人権尊重やアニマルウェルフェアなどの社会課題の解決を目指し、持続可能なサプライチェーンを構築していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●持続可能な畜産産業への貢献</li> <li>●人権を尊重した調達の推進</li> <li>●アニマルウェルフェアへの配慮</li> </ul>	動物の糞のリサイクル率 ヘルスケア事業の売上高 サプライヤー調査カバー率 妊娠ストール (豚) の廃止
 <b>地域社会への貢献</b>	当社は、地域社会の一員として、また、良き企業市民として、地球環境への配慮や安全衛生、雇用の創出など「社会との共生」を重視した取り組みを推進していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境保全・美化活動の推進</li> <li>●地域社会の活性化への貢献</li> </ul>	
 <b>コーポレート・ガバナンスの強化</b>	当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づき、最適なガバナンス体制を構築していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンプライアンスの遵守・推進</li> <li>●リスクマネジメント</li> </ul>	
 <b>妥協しない美味しさと高品質へのこだわり</b>	当社は、これまで歩んできた歴史と技術の伝承を守りながら、すべてのお客様に喜んでいただける商品・サービスの提供を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安全・安心な食品の提供 ※1</li> <li>●新たな価値をつくり続ける人材の育成</li> <li>●創業からの想いと長年培ってきた技術の伝承</li> </ul>	食品安全の第三者認証拠点数 ※1

※1.マテリアリティの取り組み項目を見直した結果、「安全・安心な食品の提供」を、「妥協しない美味しさと高品質へのこだわり」として再設定 (KPI食品安全の第三者認証拠点数も移行)

## マテリアリティの特定プロセス

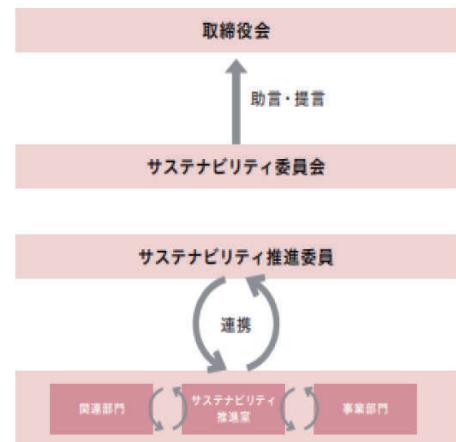


## 推進体制

### ■ サステナビリティ委員会の活動と推進体制

2021年4月、取締役会の諮問機関としてサステナビリティ委員会を設置。取締役常務執行役員管理本部長を委員長として、各部門の代表者と社外有識者で構成された委員会メンバーにて、2022年度もサステナビリティに関連した経営課題について、国際的な動向やイニシアティブなどの社会要請も踏まえつつ、継続した議論を重ねてきた。

また、各事業部門におよび関連するコーポレートの各部署にサステナビリティ推進委員を任命し、サステナビリティ委員会で決定した事項の各部門への周知や施策に対する検証、進捗の管理、各部署での取り組みの共有など、サステナビリティへの取り組みを全社で加速させる体制としている。



## ■ 原材料調達における取り組み

### 国内畜産業支援・食料自給率向上

#### 事例概要

#### ■ 国内畜産業の温室効果ガス削減／生産性向上

##### ・具体的な取り組み／温室効果ガス削減可視化システム構築事業へ協力

当社は、全国肉牛事業協同組合と東京農業大学が共同実施する「肉用牛生産における温室効果ガス(GHG)削減可視化システム構築事業」に、当社の和牛生産事業の協力農場である「みらいファーム」を通じて協力している。

本事業は、①牛のゲップ中のメタンが削減できる飼料の給餌、②排せつ物の早期の好気性発酵促進等、先進的な取組事例におけるGHG削減の実態を科学的に把握し可視化することにより、肉用牛生産者に対してGHG削減への対応方向を提示できる仕組みの構築を目的としている。

#### 情報源

<< 会社HP >> NR ~ 肉用牛生産における温室効果ガス削減可視化システム構築事業への協力のお知らせ ~  
<https://www.itoham-yonekyu-holdings.com/whatsnews/?itemid=1504&dispmid=699>

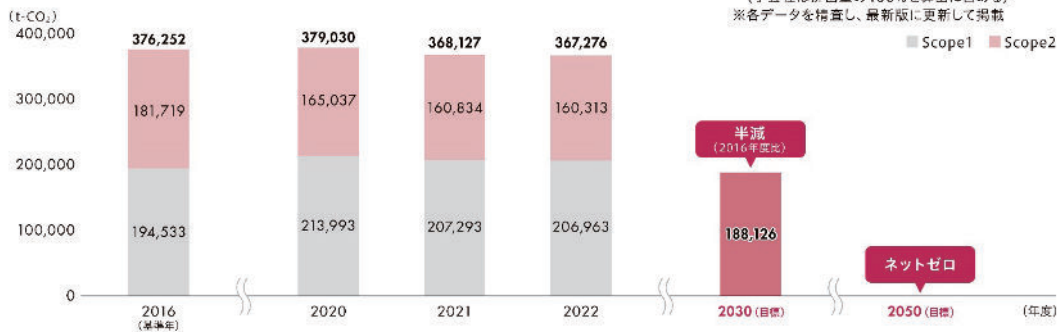
<< 会社HP >> ~ 統合報告書2023 ~ 32頁

[https://www.itoham.co.jp/Portals/0/corporate/getfile/20230929\\_IR2023\\_ALL\\_high\\_resolution.pdf](https://www.itoham.co.jp/Portals/0/corporate/getfile/20230929_IR2023_ALL_high_resolution.pdf)

#### 成果 (見込含)

#### 食品原材料安定供給につながる農畜産業支援、畜産業の課題解決に貢献

温室効果ガス排出量 (Scope 1・2) の推移と削減目標



## 代替食品の研究開発

### 取組背景（目標）

当社グループは、将来的に起こり得る世界的な人口増に伴うたんぱく質の需要増加や気候変動への適応策として、動物性たんぱく質に代わるたんぱく源を提供していく責務があると考えている。牛・豚・鶏に次ぐ第四の肉となる商品を提供することで、選ぶ楽しさ、食べる喜びを提供したい。

### 事業概要

#### ■ 代替食品開発・販売

##### ・具体的な取り組み①／「安全・安心」で良質なたんぱく質を

動物性たんぱく質に代わるたんぱく源を原料とした商品開発にも取り組み、多様なニーズに応えていきたいと考え、代替たんぱく質のひとつの選択肢となり得る大豆ミート惣菜「まるでお肉！」シリーズを2020年から販売している。

継続してラインナップを拡充し、パッケージのリニューアルや販促を通じて、商品の定着を図っている。

顧客・消費者に安全・安心な商品とサービスを提供するために、法令遵守はもとより適正な商品情報の開示にも引き続き取り組んでいく。



豊富なノンミートブランド

### 情報源

<< 会社HP >> ～ 統合報告書2023～ 7・17頁

[https://www.itoham.co.jp/Portals/0/corporate/getfile/20230929\\_IR2023\\_ALL\\_high\\_resolution.pdf](https://www.itoham.co.jp/Portals/0/corporate/getfile/20230929_IR2023_ALL_high_resolution.pdf)

<< 会社HP / 伊藤ハム >> ～ まるでお肉！大豆ミートシリーズ～

<https://www.itoham.co.jp/product/product/serieslist.html?catid=248>

### 成果（見込含）

#### 食品原材料安定供給につながる代替食品の開発

## 環境／生物多様性保全・森林保全

### 事例概要

#### ■ 環境／生物多様性保全活動

##### ・「こうべ森の学校」の活動支援

2002年に緑化100周年を迎えた六甲山系で、これからの100年の森林保全と育成をめざして神戸市が進める「六甲山これからの百年の森づくり」を市民の手で行う「こうべ森の学校」をバックアップしている。

「こうべ森の学校」は、市民・行政・企業が協働で森林保全活動を推進するプログラムで、当社は自



然環境保護活動の一環として活動資金の提供や、社員ボランティアを派遣し、参加者には毎回当社製品をプレゼントしている。

この活動は、市民が植樹や間伐など森林の手入れはもちろんのこと、間伐材などの森の恵みを利用してログハウス、木工品の制作などの活動に発展している。

[ こうべ森の学校 ] : <https://kobe-mori.jp/wp/morigaku/>



こうべ森の学校演習林



森の手入れ作業



自然観察

### ・ビーチクリーンアップ活動

兵庫県の甲子園浜で、2003年秋から当社自主プログラムの「クリーンアップ in 甲子園浜」を環境企画課（環境学習都市推進担当）、NPO法人海浜の自然環境を守る会、ヤマサ環境エンジニアリングの協力を得て実施。

この活動は、兵庫県西宮市に工場、営業所など事業拠点を構える企業として、西宮市の豊かで貴重な自然環境の保護に寄与する事、食品メーカーとして、生産活動に欠かす事の出来ない大変貴重な資源である“水”の良好な環境保全に寄与する事、及び阪神間に唯一残された自然の砂浜と干潟を有する、甲子園浜の貴重な自然環境の保護に寄与する事を目的としている。



浜辺のごみ拾い

### ・その他、全国で森林保護やクリーンアップ活動に参加

- ◇ 「高尾の森づくりの会」の活動へ参加
- ◇ 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン
- ◇ 梅田川ふれあいクリーン作戦
- ◇ クリーンアップ石狩新港浜（北海道）
- ◇ 石狩湾新港クリーン作戦（北海道）
- ◇ 国道4号線清掃（宮城県）
- ◇ 小矢部市530（ごみゼロ）運動（富山県）
- ◇ 東京ベイクリーンアップ大作戦（東京都）
- ◇ 目黒川クリーンアップ作戦
- ◇ クリーン作戦「増森に住んでよかった」
- ◇ 基山町クリーンアップ作戦



目黒川クリーンアップ大作戦

## 情報源

<< 会社HP >> ～ 環境取り組みの概要／伊藤ハム 森林保護活動～  
<https://www.itoham-yonekyu-holdings.com/csr/kankyo.html#forest>

<< こうべ森の学校 >> ～ 六甲山 これからの100年の森を育てましょう～  
<https://kobe-mori.jp/wp/morigaku/>

## 成果（見込含）

### 環境／生物多様性保全

### 事例概要

#### ■ 生物多様性再生プロジェクト

##### ・ FIVE STAR牧場（ニュージーランド／当社食肉輸入元）での希少植物保護

生態系の繁栄には生物多様性が重要要素である。

当社の100%子会社であるANZCOフーズが所有するFIVE STAR牧場地域には、希少で絶滅の危機に瀕している植物が数多くあり、当社は森林・鳥類保護協会およびクイーンエリザベスⅡトラストとの協力により、20エーカー<sup>※</sup>の敷地でこれらの希少な植物を保護している。

この敷地の所在地であるアシュバートン地域では、希少種であるkowhai（ニュージーランド原産のマメ科の木）の群生が残っており、樹齢約100年と推定されている。

今後も地元の保護団体と協力しながら、既存の生態系の保護と植樹活動を進めることによって、生物多様性再生に貢献する。

※1エーカー=4046.9㎡



FIVE STAR牧場地域の植物群生の様子

ランディキティ工場での水の再利用例



希少類の種を集め、繁殖を目的に保護

##### ・ 水資源／用水量の改善と最適化

またANZCOフーズでは、工場での水の使用と最適化に重点を置いている。ランディキティ工場では、工場全体の使用プロセスを見直すことで、それ以前と比較し水の使用量を40%削減。

この大幅な削減は、工場全体で多くのメリットをもたらし、とくに廃水処理システムへの負荷が減少している。

※ANZCO FOODSは、2020年に気候変動とサステナビリティに関する3カ年計画を策定。順調に取り組みを進めている。

### 情報源

<< 会社HP >> ~ 統合報告書2022 ~ 30頁

[http://1186.jp/Integrated\\_Report\\_2022/](http://1186.jp/Integrated_Report_2022/)

<< 食肉海外事業説明会資料 >> ~ ANZCOフーズ事業概要 ~

[http://1186.jp/Meat\\_overseas\\_business\\_20220909/](http://1186.jp/Meat_overseas_business_20220909/)

<< 会社HP >> ~ 統合報告書2023 ~ 25-26頁

[https://www.itoham.co.jp/Portals/0/corporate/getfile/20230929\\_IR2023\\_ALL\\_high\\_resolution.pdf](https://www.itoham.co.jp/Portals/0/corporate/getfile/20230929_IR2023_ALL_high_resolution.pdf)

### 成果（見込含）

環境／生物多様性保全、水資源保全

## ■ 製造・廃棄・物流における取り組み

### 環境／生物多様性保全・環境負荷低減

#### 取組背景（目標）

当社は、連結ベースで気候変動を含む環境課題に対応すべく、グループ会社における環境データを毎年把握することによって、世界規模の課題である、温室効果ガス排出量削減をはじめ、環境負荷低減に向けて様々に取り組んでいく。

#### 事例概要

##### ■ 温室効果ガス排出量抑制

###### ・具体的な取り組み①／温室効果ガス排出量削減

都市ガスを燃料に発電し、排出した熱を回収して利用できるエネルギー効率の良い発電設備であるコージェネレーションシステムを、2022年2月より、浅草ハム関東工場に導入。既存の蒸気ボイラーの運転時間が削減されることで、CO<sub>2</sub>排出量を年間約300t削減できる見込みとなっている。同年、西宮工場にも同設備を導入。今後、他工場でも導入を検討していく。加えて、東京工場や東北工場などにおいて合計120台の冷凍冷蔵設備の更新を実施した。さらに、畜産由来排出量（当社排出量の約15%）の削減に向けた取り組みを開始しており、畜産産業全体の課題解決に貢献する。



浅草ハム関東工場に導入した  
コージェネレーションシステム

###### ・具体的な取り組み②／廃食油を100%再利用できるボイラーを導入

生産工場などで発生する廃食油を100%燃料として利用できる廃食油ボイラーを、2021年4月より、東北工場に導入。従来使用していた重油の代わりに植物由来の廃食油を使用することで、CO<sub>2</sub>排出量を年間約1,200t削減している。

CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けて、他工場でも導入を検討中。



東北工場に導入した  
廃食油ボイラー

#### 情報源

<< 会社HP >> ~ 統合報告書 2022 ~ 29-30頁  
[http://1186.jp/Integrated\\_Report\\_2022/](http://1186.jp/Integrated_Report_2022/)

<< 会社HP >> ~ 統合報告書 2023 ~ 32頁  
[https://www.itoham.co.jp/Portals/0/corporate/getfile/20230929\\_IR2023\\_ALL\\_high\\_resolution.pdf](https://www.itoham.co.jp/Portals/0/corporate/getfile/20230929_IR2023_ALL_high_resolution.pdf)

#### 成果（見込含）

##### 温室効果ガス排出量削減、畜産業界の課題解決に貢献

温室効果ガス排出量削減量：8,976 t -CO<sub>2</sub> (基準年／2016年)



## 資源循環・廃棄物排出量削減

### 取組内容

#### ■ 食品廃棄物削減

##### ・具体的な取り組み／食品廃棄物を肥料にリサイクル

当社グループの食品廃棄物リサイクル活動のひとつに、米久エコ・プロジェクトセンターによる取り組みがある。

同センターでは自社工場や協力会社から排出される食品廃棄物をリサイクルし、良質な肥料を年間約 500t生産している。肥料は契約農家などで利用されている。



米久エコ・プロジェクトセンターと堆肥攪拌作業の様子



### 情報源

<< 会社HP >> ~ 統合報告書 2022 ~ 30頁  
[http://1186.jp/Integrated\\_Report\\_2022/](http://1186.jp/Integrated_Report_2022/)

### 成果（見込含）

#### 資源循環、食品廃棄量削減

食品廃棄物から年間約 500 t の肥料を生産

## 廃棄物排出量削減・廃プラ削減

### 取組内容

#### ■ プラスチック使用量・廃棄量削減

##### ・具体的な取り組み／環境配慮型パッケージへの変換

当社は、環境負荷を軽減し地球環境保全に貢献するため、「The GRANDアルトバイエルン 127g」などの巾着形態商品を、2022年2月1日より環境配慮型へ順次切り替えている。これにより、プラスチック使用量は、対象商品全体で約30%の削減を見込むことができる。また、プラスチックの削減だけでなく、配送用の段ボール入数も10パックから12パックに変更して、物流効率改善につなげる。



## 情報源

<< 会社HP >> NR ~ 「The GRAND アルトバイエルン 127g」など巾着形態商品を環境配慮型へ ~  
<https://www.itoham.co.jp/news/?itemid=1255&dispmid=1869>

## 成果（見込含）

### プラスチック使用／廃棄量削減、物流効率改善

対象商品のプラスチック使用量削減：年間約 150 t / CO<sub>2</sub>換算約 850 t、輸送負荷軽減：CO<sub>2</sub>換算で 240 t